

社長メッセージ

# 地球温暖化防止に向けて



代表取締役社長

南雲忠信

---

## 「GD100」でトップレベルの環境 貢献企業を目指すと宣言

---

横浜ゴムグループは、2006年に策定した新中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」の中で、トップレベルの環境貢献企業になることを宣言し、これを実現するための指針として、世界の全拠点で、高度で同質の環境経営を行う「グローバル環境経営」、すべての商品を環境貢献商品にする「環境貢献商品」、産業廃棄物の100%再資源化などを行う「トップレベルの環境対応」の3つを打ち出しました。

---

## 地球温暖化防止こそ緊急で最大のテーマ

---

さて、今日、世界共通の最大の課題は、温室効果ガス削減による地球温暖化防止です。地球環境の危機を描いた米国映画「不都合な真実」が、2006年度のアカデミー賞を受賞するなど、今後、米国を含め世界的に地球温暖化防止の活動が加速していくと思われま。こうした中において、横浜ゴムグループの使命は、「GD100」で決めた基本方針の下、地道に活動に取り組む、ひとつひとつ計画を達成していくことです。

---

## 横浜ゴムグループ全体で活動が活性化してきたと感じる

---

横浜ゴムグループでは、中長期的視野に立ってさまざまな活動を展開中ですが、2006年度は、温室効果ガス排出量を京都議定書の目標マイナス6%を上回るマイナス8.2%の達成、日本政策投資銀行の環境格付審査での最上位ランクの取得、本社機構でのISO14001の認証取得などの成果を上げることができました。しかし、私が何よりも心強く感じたのは、環境貢献のための仕組みが強固となり、グループ全体で活動が活性化してきたことです。

---

## 環境貢献商品の定義を明確化し、開発に拍車がかかった

---

例えば商品開発では、“環境貢献商品とは何か”を数値を使って定義する仕組みを作りました。この結果、現有商品に占める環境貢献商品の比率も明確化でき、すべての商品を環境貢献商品にするとの目標達成に向かって、大きな道筋をつけることができました。新商品としては、非石油系資源を80%使用した乗用車用タイヤ「DNA dB super E-spec」、トラック・バス用タイヤの新エコブランド「ZEN」を発売したほか、走行

騒音を低減する「多孔質弾性舗装材」の実用化に向けテスト施工を行いました。また化学物質管理や物流の改善では、取引先との連携を一層強化したサプライチェーンの仕組み作りも行いました。さらに国内、海外のグループ会社でも着実に進展が見られ、横浜ゴムと同質、同レベルの環境経営へ移行しつつあります。

---

## 千年の杜プロジェクトで地域の皆さまと杜の創生を図りたい

---

こうした日常業務に加え、2007年度から、全国の工場敷地の周辺部に植樹し、10年をかけて杜を育てる「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトをスタートさせます。地球温暖化防止を図ると共に、地域住民の皆さまにも、安全、憩い、快適性を提供できる杜にしていきたいと考えています。

---

## 多様なステークホルダーのご期待に応えるために

---

お客さま、株主・投資家の皆さま、取引先さま、従業員、そして地域社会の皆さまが、横浜ゴムグループへ寄せられるご期待は、環境貢献に加え、コンプライアンス、品質、安全、社会貢献など、幅広い分野に広がっていると認識しています。横浜ゴムは、経営方針のひとつに「社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする」と謳っており、今後もこの方針に基づき、世界の横浜ゴムグループの全従業員が、日々の業務を通じて、多様なステークホルダーの皆さまのご期待に応え、企業の社会的責任を果たすべく努力してまいります。

本報告書を通じて、横浜ゴムグループの環境・社会活動についてご理解を深めて頂くと共に、皆さまからの忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。